

第10回 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議 議事要旨

平成22年6月16日（水）18:00～20:10

中央合同庁舎3号館 11階特別会議室

【出席者】

中川座長、宇野委員、三本木委員、鈴木委員、田中委員、辻本委員、道上委員、森田委員、山田委員、三日月副大臣、津川政務官、中原政策官、佐藤河川局長

【ケーススタディについて】

○ケーススタディについて委員の間で意見交換が行われた。

○主な意見は以下のとおり。

- ・ 実現性について、例えば河道掘削であれば、河川の特性に応じ、魚類の産卵等に配慮した方法で施工する場合の工期、掘削土砂の処分、掘削後の再堆積の観点を含めて検討することが重要ではないか。
- ・ 例えば、治水対策案は単一の方策（例えば、遊水地）だけでなく、いくつかの方策を組合せて、コストが低くなるような案を検討することが必要ではないか。
- ・ 「地域社会への影響」は、評価が大変難しいが、コストに関わる可能性が高いため、可能な限り定量的に評価することが重要ではないか。
- ・ コストは原単位を元に計算することも重要だが、不確定要素（例えば、土砂の処分先）や地域の特性（例えば、補償する農地の収益性等）があり、どこまで考慮してコストを計算するかを明らかにすることが重要ではないか。
- ・ 代替案を検討したり、関係住民の意見を聴いたりするのに時間を要し、限られた期限で結果を報告できないことが考えられるのではないか。
- ・ 検討に要するコストや時間も念頭に置きつつ、代替案の検討をどの程度の精度で行うかを考えていくことが重要ではないか。

【中間とりまとめ本文（タタキ台）について】

- 前回（第9回会議）で配布された「骨子」を基本にして作成した「中間とりまとめ本文（タタキ台）」が示された。

【その他】

- 座長から、資料2をもとに、意見募集で頂いた御意見で、治水対策案や評価軸について具体的な提案があった代表的なものについて、報告があった。なお、本日の資料2には、個別ダムの賛否に言及しているものは含まれていないが、これらの意見の中にも参考となるものがあるとの指摘があった。